

## 1 国家財政および地方財政

### ■ 国家財政 緩やかな回復基調が続くが、海外の影響で景気下押しリスクあり

- ▲ 日本経済は雇用・所得環境の改善が続いており、緩やかな景気回復が期待される
- ▼ 海外経済でみられる弱さの影響により、日本の景気が下押しされるリスクあり

### ■ 国予算 歳出改革の取組みの強化とともに予算を大胆に重点化

- ・ 施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除し予算の中身を大胆に重点化
- ・ 民需主導の持続的な経済成長と一億総活躍社会の実現に向けて、28年度内に補正予算を予定

### ■ 地方財政 消費税増税の先送り等により、安定的な財源の見通しは困難

- ・ 消費税増税の先送りにより、増加する社会保障の充実に係る経費に充てる財源の不足にくわえ、今後の税制改正の影響等からも安定的な財源確保の見通しが難しい

## 2 茨木市の財政

厳しさの増す財政環境の中でも、立ち止まることなく行政の使命を果たしていかなければならないが、何も手立てを講じない場合、収支の均衡は崩れる

### ■ 平成29年度の見通し 何も手立てを講じない場合、収支の均衡が崩れ出す

【歳入】 法人市民税の税率改正による減額の影響等があるものの、家屋の新築等による固定資産税の増収から、税等一般財源はかろうじて確保できる見込み

【歳出】 社会福祉経費の増加と政策事業の経常化経費が累積する厳しい状況の中でも、教育・保育・防災等の充実を図るとともに、JR駅関連整備事業等の主要プロジェクト事業の着実な推進を見込む場合、収支の均衡は崩れ出す

### ■ 平成30年度以降の見通し 財源不足が累積する厳しい財政状況

【歳入】 一定の経済成長を見込むことによる市税収入の逡増に伴い、地方交付税は緩やかに減少すると見込むが、臨時財政対策債を含めた税等一般財源の総額は一定額が確保できる見込み

【歳出】 高齢者人口や保育需要の伸び等により、社会福祉経費が増加する厳しさの増す状況の中、新規・拡充のソフト事業費、主要プロジェクト等のハード事業費等と政策事業の経常化経費を見込む場合、財源不足が累積する厳しい状況

## 3 予算編成にあたっての基本的な考え方

将来にわたり市民サービスの充実を図るため、「メリハリあるビルド&スクラップ」を実践し、

- 今 → 幸せあふれる未来へとつなぐ「今」必要なサービスの充実
- 将来 → 魅力ある快適なまちへとつながる「将来」へのまちづくり
- 健全性 → 持続的発展を支える「財政の健全性」の確保

の実現を図り、わがまち茨木の「確かな未来」がイメージできる予算とする。

### 実現のための取組み

### ■ 「今」と「将来」に対応した施策の実現と「健全性」の確保

対話と議論を重視した公平・公正な市政運営を基本に、財政の健全性を確保のもと、マニフェストへの対応及び総合計画の着実な推進を図る。

### ■ 将来にわたり行政の使命を果たすための取組みの実施

#### ● ビルド&スクラップの実践による事業の見直し(柔軟な財政構造の保持)

新規・拡充事業(ビルド)の財源は既存の事業や制度の見直し(スクラップ)により創出することとし、その趣旨や内容等を市民にしっかりと説明できる「メリハリがあるビルド&スクラップ」の実践に職員一丸となって取り組む。

【ビルド】 ・実施計画事業は、事業費の精査、効率的・効果的な実施方法を検討  
・「いばらき未来枠」を活用し、各部各課でアイデアを持ち寄り積極的に立案

【スクラップ】 ・経常経費の削減と適切な事業の見直しを徹底(目標額3億円を部別に配分)

#### ● ハード事業の適切な選択による市債発行の抑制(将来(世代)への負担の抑制)

### ■ 老朽化する公共施設等について予防保全的な取組みの実施

一時期に集中する財政負担の平準化と低減を図るため、更新ではなく長寿命化を基本とし、財政計画で確保する財源を活用し、予防保全的な改修等を実施する。

### ■ 市制施行70周年プレ事業・記念事業の実施

平成30年の市制施行70周年に向け、市民参加型のシティプロモーションの推進、総合計画の施策実現につながるようなプレ事業・記念事業の立案に努める。

政策事業の財源は、経常収支27億円に、経常経費の見直し目標額3億円の達成により30億円を確保し、28億円は実施計画対象事業(うち、特定目的基金積立6億円)を、残りの2億円は「いばらき未来枠」に活用する。

## 4 財政収支の見通し

① 経常収支（現行制度による人口推計等を基本とした一般会計の見通し） (単位：億円)

中長期財政見通し		29年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38
A 経常事業	① 歳入	810	810	811	817	818	820	825	826	825	820
	(1) 市税	448	449	457	454	448	453	457	451	451	456
	(2) 譲与税・交付金	70	70	70	80	80	80	80	80	80	80
	(3) 地方交付税	14	14	13	11	13	11	10	13	10	9
	(4) 市債（臨時財政対策債）	18	17	10	11	15	14	16	17	14	10
	(5) その他	260	260	261	261	262	262	262	265	265	263
	② 歳出	779	778	780	785	785	787	790	785	784	782
	(1) 人件費	140	141	141	141	141	142	144	143	144	142
	(2) 社会福祉経費 ※1	347	348	349	353	355	357	360	362	365	366
	(3) 公債費	49	50	51	52	52	52	50	44	41	38
(4) その他	243	239	239	239	237	236	236	236	234	236	
A 経常収支 ①-②		31	32	31	32	33	33	35	41	41	38

※1 扶助費+繰出金（国保・後期・介護）+後期高齢者療養給付費負担金

② 政策事業 (単位：億円)

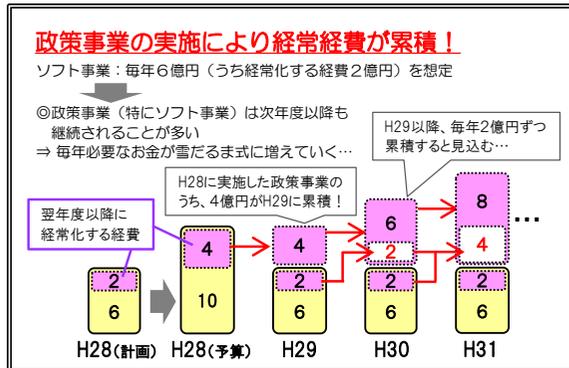
B 政策事業	③ ハード事業	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	市債	13	13	13	13	13	13	13	13	13	
	一般財源	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	④ ソフト事業	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	⑤ 基金積立	6	6	6	6	6	6	4	4	4	
	⑥ 主要プロジェクト事業	37	20	14	13	5	1	16	30	30	15
	市債	17	10	7	7	3	0	7	16	16	7
	一般財源	4	3	2	3	2	1	3	6	6	2
	事業費 ③+④+⑤+⑥	71	54	48	47	39	35	48	62	62	47
市債	30	23	20	20	16	13	20	29	29	20	
B 一般財源		20	19	18	19	18	17	17	20	20	16

C 公共施設等の老朽化対策費	⑦ 事業費	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	市債	7	7	7	7	7	7	7	7	7
C 一般財源		11	11	11	11	11	11	11	11	11

D 政策事業により経常化する経費	D <sub>1</sub> ソフト事業の新規・拡充経費	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22
	D <sub>2</sub> 公債費	0	1	1	3	5	7	9	11	12	13
D 政策事業の経常化分 合計		4	7	9	13	17	21	25	29	32	35

D<sub>1</sub> ソフト事業の経常的な新規・拡充経費が累積していく  
D<sub>2</sub> ハード事業の財源として発行する市債の償還費が累積していく

E 総収支 (A-B-C-D)	▲4	▲5	▲7	▲11	▲13	▲16	▲18	▲19	▲22	▲24
-----------------	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----



何も手立てを講じなければ、平成29年度から赤字となり、雪だるま式に増えてくよ！！  
政策事業により経常化する経費が原因みたい…  
収支不足とならないための取組みをしなければいけないね。



## 5 将来を見据えた取組み

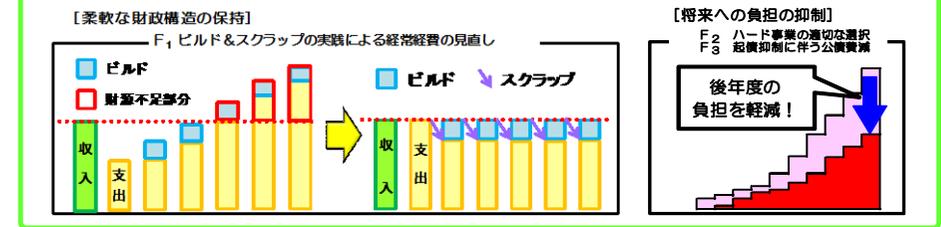
(単位：億円)

中長期財政見通し	29年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38
E 総収支 (A-B-C-D)	▲4	▲5	▲7	▲11	▲13	▲16	▲18	▲19	▲22	▲24

取組みの実践

F <sub>1</sub> 経常経費の見直し(累積額) (H29 : ▲3億円 H30以降 : ▲2億円)	▲3	▲5	▲7	▲9	▲11	▲13	▲15	▲17	▲19	▲21
F <sub>2</sub> ハード事業の適切な選択 (H29 : 事業費 ▲10億円、市負担 ▲3億円 H30以降 : ▲8億円、▲2億円)	▲3	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2
F <sub>3</sub> 起債抑制に伴う公債費の減 (H34以降 : ▲1~2億円 (参考: 起債抑制額) H29 : ▲6億円、H30以降 : ▲5億円)	0	0	0	0	0	▲1	▲1	▲2	▲2	▲2
F 取組効果 合計	▲6	▲7	▲9	▲11	▲13	▲16	▲18	▲21	▲23	▲25

### 将来にわたる財政の健全性の確保に向けた取組み



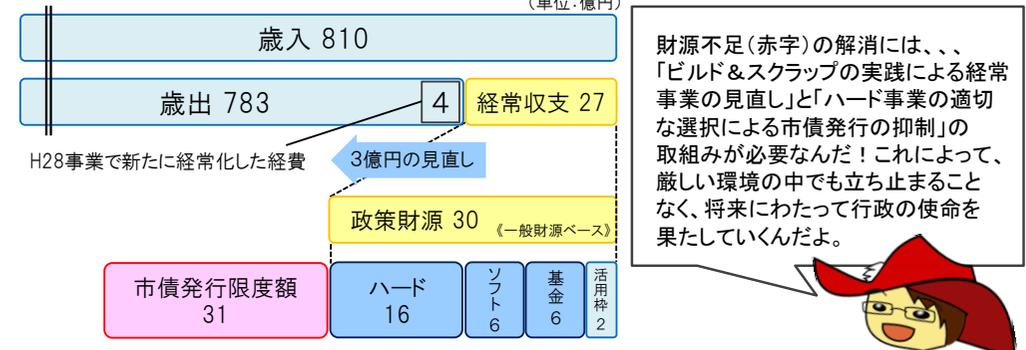
取組みの結果

中長期財政見通し	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度
最終収支 (E-F)	2	2	2	0	0	0	0	2	1	1

健全な財政運営の実践により収支不足を解消し、黒字を確保！！  
H29年度は、生み出した財源を活用してさらなる事業展開を図る(いばらき未来枠)

## 6 当初予算編成に向けての財源フレーム

(単位：億円)



財源不足(赤字)の解消には、…  
「ビルド&スクラップの実践による経常事業の見直し」と「ハード事業の適切な選択による市債発行の抑制」の取組みが必要なんだ！これによって、厳しい環境の中でも立ち止まることなく、将来にわたって行政の使命を果たしていくんだよ。

